

# 高岡ロータリークラブ

会長／田中 哲 幹事／山口 洋祐



2024/9/5

No.9

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司会 車会場監督 点鐘 田中 会長

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ゲスト

■米山奨学生 バタラチ アマルバヤスガランタ 君

会長挨拶／報告

■皆出席表彰

- 谷道 伸也 さん (24 年)
- 岡本 欣治 さん (20 年)
- 中野 健司 さん (18 年)
- 大川 英一 さん (11 年)
- 坪田 伊歩 さん (10 年)
- 二口 真 さん (7 年)
- 福田 剛平 さん (7 年)
- 勝山 英和 さん (5 年)

■米山奨学生 バタラチ アマルバヤスガランタ君  
奨学金のお渡し…一言挨拶

幹事報告

- 9月のロータリーレート 1\$=145円
- 7番テーブルミーティング⇒本日 さかさか 18:00～
- メインテーブルミーティング  
⇒9/9 串焼き居酒屋 まろにえ 18:00～

ニコニコBOX 17件 52,000円

田中会長／門前町の永光寺へ行ってきました。曹洞宗の古刹で、利長の「菩提寺」になる案もあったそうです。地元にも自分の知らない名所はまだまだ沢山あるんだなと思いました。

才高副会長・山口幹事／大谷さん AI のお話、楽しみです。

菅野君／大谷さん、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

原君／大谷さん、生成 AI のお話とても楽しみにしています。よろしくお願ひします。

前川君／誕生祝をいただいた時に 75 歳になり高齢者マークが必要になりましたと発言しましたが、道路交通法の 71 条の 5 条 2 項には「七十五歳以上の

ものが高齢運転者標識を付けないで普通自動車を運転すること」を禁じる規定があるのですが、反対意見により 道路交通法附則第 22 条により当分の間、適用しないこととなりました。訂正、お詫びいたします。

河村君／大変ご無沙汰しました。この間、ご心配、お気遣いを賜り本当にありがとうございました。

竹田君／先日、某民放テレビ番組で視聴者が推す「ます寿司」10 店の中から、さらに 4 人のシェフの審査により、ニューオータニ高岡が美味しさトップ！の評価となりました。(ちなみに裏工作は一切ありません。) この後、電話の問い合わせが 300 件以上と大反響！！富山で 1 番ってことは、「世界で 1 番美味しいます寿司！！」ってこと！？

中沖君／高校時代の恩師（桐朋高校バトミントン部監督）が藤田会長の平和合金さんで、金属工芸作品のコラボをしていただきました。新宿京王プラザホテルでの個展で展示され、40 年かけてやっと少しだけ恩返しができました。

瀬下君／昨晚の NHK 番組「ファミリーヒストリー」出演は女優の吹雪ジュンさんでした。彼女のお爺様は、戦前から戦後にかけて、弊社高岡工場の社員でした。その関係もあり、数ヶ月前、NHK の取材を受け、昨晚の番組にも管理課長が出演しています。撮影場所は私の執務室でした。再放送が 9 月 10 日（火）午前 0 時 35 分から午前 1 時 20 分に予定されていますので、興味のご興味のある方はぜひご視聴ください。

谷道君／皆出席をいただき

中野君／皆出席表彰をいただき

大川君・坪田君／皆出席いただき有難うございます。

二口君／皆出席祝をいただき有難うございました。

福田君／皆出席表彰ありがとうございます。

勝山君／皆出席表彰いただき有難うございました。

## 生成AI（人工知能）について

大谷 嘉一 会員

AIの仕組みは、人間が五感で感じたことを脳が記憶するメカニズムをヒントにしている。皆さんが手で触ったり、目を見たことは、電気信号として脳に集められる。電気信号は通電するか止まるかのオンオフの制御によって脳に記憶される。それはちょうどコンピューターが扱いやすい仕組み。そこで脳の神経回路を模したニューラルネットワークという解析方法ができた。

最初の学習モデルは画像解析から始まっている。画像を無数のピクセルに分解して、どこに特徴的な要素があるかを学習させる。繰り返すと精度がどんどんアップして、未知の画像データを入力すると、特徴を分析してネコとかイヌとか判定できるようになっていく。モナリザの画像を解析して、例えば目の動きを、笑う、泣く、怒ると文章で入れて学習させる。笑う目、泣く目、怒る目とはそれぞれどのような目なのか。その画像の特徴を膨大なデータから引っ張り出して覚えさせる。そうすると、笑ってほしいとか泣いてほしいと文章で入力すると、そのように変えることができる。どこに特徴を持たせるか。その特徴を学習させれば、文章を入れ込むだけで動画もできるし、アニメもできるようになった。

文章も単に丸暗記のように覚えさせるのではなく、どのように成り立っているかを学習させた。膨大な文章のデータを解析すると「写真を」の後につながる言葉で最も確立が高いのが「撮る」だった。だからAIは「写真を」には、確立に基づいて「撮る」という言葉を予測する。画像処理と文章の学習能力が相乗効果を出して、自ら答えを探し出す生成AIができた。

生成AIの活用は様々な分野に広がっている。数秒程度の音声録音があれば、生成音声を使って、亡くなったおじいちゃんと会話しているような体験ができるビジネスも生まれている。医療分野では、医者の質問に答える患者の音声を解析し、認知度の解析に使うことができる。また、座りやすい椅子を作りたいと文章で入力すれば、図面が出てくるというように、うまく使えば省力化、効率化に結び付くし、ビジネスが大きく広がる可能性がある。

ただそれが本物かどうか、だれにもわからないという最大の欠点がある。著作権とか、意匠権も問題。AIが作ったものは誰のものか、ということだ。

AIは短期間でもものすごい進歩を遂げたのだけど、いろいろな課題を抱えているのも事実。今は解析だけだが、AIに感情が入るようになるとうなるか、そこは心配。そんなことはあってほしくないが。

## &lt;8/29 1番テーブルミーティング&gt;

楽土庵 19:00~



## &lt;9/8 前田公墓所清掃&gt;

23名出席

